

静岡数近代史研究会

会 報

4 月
2025 年 10 日
月刊第 559 号

< 4 月例会レジュメ >

沼津市本通防火建築帯に関する建築資料の調査研究

西山雄大

「防火建築帯」は、戦後の都市防災政策の一つで、不燃建築から成る帯状のボリュームで市街地を分割する。都市空間が木造建築物の密集体であった当時、市街地火災の延焼を防ぐ役割を期待された建築的対処法である。主な法的な成立根拠は「耐火建築促進法」（昭和 28 年 5 月 31 日法律第 160 号）で、原則 3 階建て以上の要件が規定されている。

《沼津市本通防火建築帯》（現・アーケード名店街）は、東京大学生産技術研究所の外郭団体である財団法人建設工学会の設計で昭和 28（1953）年 12 月に第一期工事（西側街区）が、翌 29（1954）年 10 月に第二期工事（東側街区）が竣工した。詳細時期は不明だが、計画着手は昭和 27（1952）年度中とされ、公式に防火建築帯第一号として知られる鳥取市若狭街道筋の事業とほぼ同時期に始まっていた最初期の事例と推定される。

南北に伸びる商店街に面した公共歩廊の上に「有階アーケード」が覆い被さる同建築の空間構成は、建設省-静岡県-沼津市-建築主（沼津市本通共同住宅建設組合）-設計者（建設工学会）の官民学間の協議や、坪井善勝（当時・東京大学生産技術研究所教授）の構造設計によって実現したもので、その後全国的に展開された防火建築帯の中でも類を見ない珍しい建築的特徴と言える。本建築には「昭和 29 年度日本建築学会賞（その他の業績）」が贈られたが、受賞対象が設計者ではなく沼津市建築課長（当時）の松下喜一であることも、行政の果たした役割の大きさを物語っている。

一方で同建築は、ステークホルダーの多さやその関係図式の複雑さ故に、関連資料が分散しその全容が把握されていないという、アーカイブズ学的な課題を抱えている。当該地区の再開発が進む中、発表者（西山）は戦後都市復興の歩みやモダニズム・ムーブメントを表象する存在として《沼津市本通防火建築帯》の重要性に着目した。解体工事によってその姿が消えつつある現在、同建築に関する史資料の所在や概要を網羅的に整理することは、緊急

会誌 50 号企画「会誌に思う」寄稿のお願い

会誌は今号で 50 号を迎えます。会誌はこれまで大会の記念講演の記録や会員の研究発表などの場として研究会の発展に貢献してきましたが、次の 50 号をめざし、ここで少し原点に立ち返りたいと思います。そこで、会員のみなさんの会誌に関する御意見や御感想、改善案などの御寄稿による「会誌に思う」を企画したいと思います。忌憚のない御意見をよろしくお願いいたします。

投稿規定は上記投稿規定と同様ですが、編集上の都合により、以下の点に御留意ください。

1. 分量 1 頁あるいは半頁以内とする。
2. 提出期限 2025 年 5 月 31 日

例会のお知らせ

< 4 月例会 >

日時：4 月 19 日（土）14:00～17:00

場所：Web 会議システム ZOOM/鎌倉文庫

申込方法：本誌 2 ページをご覧ください。

報告者：西山雄大氏（静岡文化芸術大学）

内 容：沼津市本通防火建築帯に関する建築資料の調査研究

< 5 月例会 >

日時：5 月 10 日（土）14:00～17:00

場所：Web 会議システム ZOOM/静岡市
歴史博物館

申込方法：5 月会報に掲載します。

報告者：青木祐一氏（静岡市歴史博物館）

内 容：静岡市歴史博物館企画展
「明治維新と静岡」見学会および
関連報告

< 会報に原稿をお寄せください >

現在、手元に原稿のストックがありません。短いものでも結構ですので、ぜひご寄稿ください。

会報原稿は、下記のアドレスにメールで送ってください。但し、掲載号については会報編集担当者にお任せください。どうぞよろしくお願いいたします。

メールアドレス：cqh00053@nifty.ne.jp
（会報編集担当：川上）

異動の季節です。住所等が変わった際には、すみやかにご連絡ください。

静岡県近代史研究会会報 第 559 号（月刊）
2025 年 4 月 10 日
非売品（非会員は印刷実費 100 円）
連絡先 〒422-8526 静岡市駿河区谷田 52-1
静岡県立大学 国際関係学部 森山優研究室
電話：054-264-5386（直通）
年会費：4,000 円（メール会員は 3,500 円）
ゆうちょ銀行払込口座：00850-6-54573
ホームページ：
<https://shizuokakenkindaishi.wordpress.com/>